

新産地報告 (5)

上野 勝典*・上野 由貴枝*

New localities of some plants in Nagano Prefecture (5)

Katsunori Ueno and Yukie Ueno

長野県産の種子植物について、新たに発見されたもの、または分布上興味深いものについて、先の報告(上野・上野 2007a)に引き続いて報告する。

ノジオカトラノオ (サクラソウ科)

Lysimachia barystachys × *L.clethroides*

2007 年 7 月 29 日 松本市(旧梓川村)下立田
650 m NAC 146626

愛知教育大の芹沢俊介氏、豊橋市の瀧崎吉伸氏と共に、ノジトラノオ *L. barystachys* の確認のため松本市(旧梓川村)の水路脇を探索していたが、それと同定できるものは見つからず、どれもオカトラノオ *L.clethroides* との雑種のノジオカトラノオであった。ノジオカトラノオは両種の雑種として、千葉県で報告され(寺村・大場 2000; 千葉県資料研究財団 2003)、その形質は茎に開出した粗い毛が多く、狭い被心形をした葉が交るなどノジトラノオの特徴がある一方、葉柄基部が赤みを帯び、幅の広い葉もあるなどオカトラノオの特徴を合わせ持つ。今回の植物も同様な特徴があり、両種の、ちらとも言えないものばかりであった。長野県新産。

シナノコザクラ (サクラソウ科)

Primura tosaensis var. *brachycarpa* 写真 1

2008 年 4 月 6 日 泰阜村 万古溪谷 300 m
NAC152947

溪流脇の岩場にシナノコザクラによく似た葉を見つけ、周囲を探したところ、数か所で群落を見つけた。同年 5 月 3 日に再来し、花を確認した(写真 1)が、以下の点でシナノコザクラにしては疑問を感じる点があった。

- ・生育地の標高が低い。
- ・そのため、周囲にイワシャジン、イワタバコなどの暖地性の植物が多い。
- ・常に水の流れている花崗岩の岩場に着生している。
- ・花期に葉身長が 100 mm 程度と大きい。

同年 8 月に再来し、さく果の様子を確認したと

ころ、ややさく果が曲り、がく片と同長程度がく片から飛び出したり、その特徴からシナノコザクラと同定した。シナノコザクラはイワザクラ *P. tosaense* var. *tosaense* の変種で、南アルプスの亜高山帯を中心に分布しており、万古溪谷はややはずれた山域になることから、新産地とした。分布の最西端、最低標高になると思われる。

トウノウネコノメ (ユキノシタ科)

Chrysosplenium pseudopilosum

2008 年 4 月 5 日 根羽村 桧原 800 m
NAC 152945

溪流脇のやや湿った場所で、トウノウネコノメの群落を見つけた。本種は 1999 年に新種とされたもので(若林・高橋 1999)、岐阜県と愛知県に分布し、長野県では 2007 年に天竜村で見つかった(上野・上野 2007b)。現地では、溪流の急斜面から、スギ林の平地まで比較的広い範囲で群生している。やや離れてキバナハナネコノメ *Chrysosplenium album* var. *flavum* も観察された。

アイナエ (マチン科) *Mitrasacme pygmaea* 写真 2

2008 年 8 月 30 日 富士見町 境 900 m
NAC 152937

東京都の齋藤佳秀氏から、富士見町でアイナエを見たとの情報を 2007 年にいただいた。2008 年の花期のころに現地を訪れたところ、アイナエが約 10 m 四方にわたって多数生育しているのを確認した。場所はアカマツ林に囲まれた墓地の日当たりの良い場所であることから、客土に種子が交って進出した可能性が考えられた。

アイナエは『長野県版レッドデータブック』では絶滅種とされていたが、近年南木曽町と栄村で見つかったとの情報がある(大塚ほか 2009)。

トヨボタニソバ (タデ科) '*Persicaria geocarpica*'

2007 年 11 月 10 日 根羽村 桧原 NAC152911
2008 年 9 月 14 日 平谷村 茶屋 KANA208102
2008 年 11 月 1 日 天龍村 神原 NAC152941

* 上野勝典・上野由貴枝 〒399-0011 松本市寿北 2-2-38

2008 年 11 月 9 日 根羽村池の平 KANA208053
 2008 年 11 月 1 日 根羽村鉢盛山 須山知香・植
 田邦彦 KANA208091

本種は 2006 年にイヌタデ属の一種であるミヤマ
 タニソバ *P. debilis* に近縁種な分類群として発表され
 (須山・植田 2006)、近く新種記載される予定であ
 る(須山氏私信)。別報に詳細を報告するが、これ
 までの分布調査により、愛知県、長野県、岐阜県で
 自生が確認され、県南部の県境付近に分布している。
 花や葉の形態はミヤマタニソバによく似ているが、
 地面近くを這い、花柄が長く伸びて花が 1 つだけ付
 いているなどの特徴がある。長野県新産。

タカネフタバラン (ラン科) *Listera pinetorum*

写真 3

2007 年 8 月 16 日 塩尻市 (旧檜川村) 萱ヶ平
 1250 m

やや湿った針葉樹林下に比較的大きな群落が見ら
 れた。本種は唇弁がやや大きく目立ち、唇弁の基
 部上部に突起があり、ミヤマフタバラン *L. nipponica*
 のような耳状裂片は無い。またアオフタバラン *L.*
makinoana のように、葉が地面近くにはつかない。
 県中部から南アルプスにかけて分布している。

ヒメフタバラン (ラン科) *Listera japonica* 写真 4

2008 年 5 月 3 日 泰阜村万古溪谷

溪流脇の苔むした湿ったところに数株が開花して
 いるのを見つけた。ヒメフタバランは主に木曾谷に
 分布しているが、伊那市 (旧長谷村) や川上村での
 記録もあり、全国的には分布が広く、琉球列島にも
 分布する (橋本他 1994)。

コアツモリソウ (ラン科) *Cypripedium debile*

写真 5

2007 年 10 月 6 日 伊那市 (旧長谷村) 小瀬戸

針葉樹林下の、やや乾いた斜面に点々と数 10 株
 程度が群生していた。現地はシカによる食害が激し
 く、下草がほとんど食べられている状態であったが、
 コアツモリソウは小型のためか、食害にはあってい
 なかった。すでに実をつけた状態で、フタバランの
 仲間かと思ったが、さく果を一つしかつけておらず、
 葉の縁がやや波打つなどの特徴から、コアツモリソ
 ウとわかった。近くでは富士見町での記録がある (清
 水 1997)。

ベニシュスラン (ラン科) *Goodyera macrantha*

写真 6

2008 年 5 月 3 日 泰阜村万古溪谷 NAC152946

溪流脇の苔むした岩場に点々とベニシュスラン
 が自生しているのを見つけた。その当時はまだ葉
 の状態であったため、同年 7 月 26 日に再来して花
 を確認した (写真 6)。暖地性のランで県内ではこ
 れまで天竜村、旧山口村での記録しかなく (長野県
 2002)、新産地である。小型のランだが、葉の大き
 さのわりには大きな薄いピンク色の花をつける。

アケボノシュスラン (ラン科) *Goodyera foliosa* var.
maximowicziana

2008 年 12 月 21 日 塩尻市北小野 840 m

細い溪流脇のスギ林下に数株が生育しているの
 を見つけた。本種は主に北アルプスから県北部にかけ
 て分布しており、白馬ではスギ林下などにごく普通
 にみかける。塩尻市では以前奈良井川沿いでも観察
 した (上野・上野 2006)。

カヤラン (ラン科) *Thrixspemum japonicum*

2008 年 5 月 17 日 泰阜村万古溪谷

2008 年 4 月 5 日 根羽村松原

カヤランは県南部を中心に分布している暖地性の
 着生ランで、スギ林下で折れた枝に付着している状
 態でよく見かける。万古溪谷では、カヤの古木に着
 生したものを、根羽村ではスギ林下に落下している
 のを見つけた。周囲では、天竜村、飯田市 (旧南信
 濃村、旧上村) で観察したことがある。

ヒメホテイラン (ラン科) *Calypso bulbosa* 写真 7

2008 年 6 月 14 日 伊那市 (旧長谷村) 大久保

コケむした針葉樹林下にホテイラン *C. bulbosa* var.
speciosa が点々と咲いていた。その中に唇弁下の 2
 つに分かれた距の部分の部分が短く、正面からはわずかに
 見える程度の個体がありヒメホテイランと同定し
 た。周囲の個体も多少距の長さの違いがあるもの
 の、どれも通常見かけるホテイランよりも短かった。
 ヒメホテイランはホテイランの基準変種で、ユーラ
 シア大陸の寒冷地に分布し (橋本他 1994)、国内
 では北海道、青森およびそれと隔離して長野県に分
 布している。『信州高山高原の花』(今井 1992) に
 は、1987 年に南アルプスで見つかったとされてい
 る。また、『CD-ROM 長野県植物誌資料集』には、
 2001 年に今井建樹氏によって富士見町で採集され
 た標本の記録がある。伊那谷側では初めてではない
 かと思われる。ヒメと名付けられているが、ホテイ



写真1 シナノコザクラ 2008年5月3日 泰阜村



写真2 アイナエ 2008年8月30日 富士見町



写真3 タカネフタバラン
2007年8月16日 塩尻市



写真4 ヒメフタバラン
2008年5月3日 泰阜村



写真5 コアツモリソウ
2007年10月6日 伊那市



写真6 ベニシュスラン
2008年7月26日 泰阜村



写真7 ヒメホテイラン 2008年6月14日 伊那市



写真8 ウチョウラン 2008年6月28日 泰阜村



写真9 ギボウシラン 2008年7月20日
根羽村



写真10 ヒダボタン 2009年4月18日 王滝村

ランと比べて特段小さいとは思われなかった。

ウチョウラン (ラン科) *Orchis graminifolia* 写真8
2008年6月28日 泰阜村 万古溪谷

溪流脇のやや日当たりの良い岩場に数株のウチョウランが咲いているのを見つけた。周囲を探してみると数か所に自生していた。そのうち1か所は近くの岩場から大きな樹木が崩落して日当たりが良くなっていたため、消失するおそれがある。ウチョウランは県内ではやや標高の高いところに分布しており、以前八ヶ岳ふもとの佐久市(旧望月町)の数か所で観察したことがある。

ショウキラン (ラン科) *Yoonia japonica*
2008年7月4日 松本市(旧四賀村) 蝶が原林道

1400 m

蝶が原林道の数か所の法面でショウキランが咲いているのを見かけた。県北部では比較的良好に見かけるが、県中部で見ることは少ない。同年の6月22日にも上田市(旧武石村)の美ヶ原登山道でも見えている。

ギボウシラン (ラン科) *Liparis auriculata* 写真9
2008年7月20日 根羽村 松原 NAC152938

小さな水の流れのすぐ脇に10株程度のギボウシランが咲いているのを見つけた。本種は県内では霧ヶ峰に産するとされるが(諏訪の自然誌植物編集委員会 1981; 横内 1983)、『長野県植物誌』(清水監修 1997)では不明種の扱いになっていた。ギボウシランは葉が円形でギボウシの葉によく似ていることからその名がある。

ヒダボタン (ユキノシタ科) *Chrysosplenium nagasei*
写真10

2009年4月18日 王滝村 滝越 1000 m

NAC154608

石がゴロゴロして湿った比較的日当たりの良い斜面にヒダボタンが開花しているのを見つけた。本種は Wakabayashi and Ohba (1995) によって新種とされたもので、岐阜県中部を中心に分布し、長野県では 1957 年に王滝村濁川温泉で採集された標本の記録が記載されている。ボタンネコノメによく似ており、黄色い萼が直立し、雄しべは萼より短いなどの特徴がある。苞葉はボタンネコノメと比較するとやや大きめで、葉の葉脈は白い筋が目立たない。その後の御岳山の噴火による濁川の大規模な崩落によって自生地が失われた可能性があったため、『長野県版レッドデータブック』では情報不足扱いとなっていた。

謝辞

本報告の作成にあたり、貴重な助言をいただきました長野県環境保全研究所&ハーバリウム (NAC) の大塚孝一氏には、心より感謝いたします。ノジオカトラノオの同定についてご教授いただきました愛知教育大の芹沢俊介氏、豊橋市の瀧崎吉伸氏には、心より感謝いたします。アイナエの自生情報をいただきました東京都の齋藤佳秀氏には心より感謝いたします。トヨバタニソバに関する貴重な情報をいただきました金沢大の須山知香氏、植田邦彦氏には心より感謝いたします。

引用文献

- 今井建樹 (1992) 信州高山高原の花. 信濃毎日新聞社.
- 上野勝典・上野由貴枝 (2004) 新産地報告. 長野県植物研究会誌 37 : 49-50.
- 上野勝典・上野由貴枝 (2005) 新産地報告 (2). 長野県植物研究会誌 38 : 137-138.
- 上野勝典・上野由貴枝 (2006) 新産地報告 (3). 長野県植物研究会誌 39 : 123-127.
- 上野勝典・上野由貴枝 (2007a) 新産地報告 (4). 長野県植物研究会誌 40 : 233-236.
- 上野勝典・上野由貴枝 (2007b) 長野県で見つかったトウノウネコノメ. 長野県植物研究会誌 40 : 103-105.
- 大塚孝一・尾高雅章・石沢進 (2009) 長野県絶滅種アイナエの南木曾町及び栄村での自生確認. 長野県環境保全研究所研究報告 5 : 81-82.
- 塩尻市誌編纂委員会 (1991) 塩尻市誌. 第一巻自然.
- 清水建美監修 (1997) 長野県植物誌. 信濃毎日新聞社.
- 須山知香・植田邦彦 (2006) ミヤマタニソバ (タデ科) 近縁の新種トヨボタニソバ. 日本植物学会第 70 回大会 講演要旨集 184.
- 諏訪の自然誌 植物編 編集委員会 (1981) 諏訪の自然誌 植物編. 諏訪教育会
- 千葉県資料研究財団 (2003) 千葉県の自然誌 別冊 4 千葉県植物誌. 千葉日報社.
- 寺村啓子、大場達之 (2000) ノジオカトラノオとオカトラノオの自然雑種 (ノジオカトラノオ - 新称). 千葉県植物誌資料 -18 : 133-136
- 長野県 (2002) 長野県版レッドデータブック. 維管束植物編.
- 長野県植物誌資料集作成委員会 (2005) CD-ROM 長野県植物誌資料集 (普及版).
- 橋本保・神田淳・村川博実 (1994) 野生ラン. 家の光協会.
- 横内斎 (1983) 信濃植物誌. 信濃植物誌刊行会.
- 若林三千男・高橋弘 (1999) 本州中部産ネコノメソウ属の一新種および一新変種. 植物分類、地理 50(1) : 1-11.
- Wakabayashi M. and Ohba H. (1995) A Taxonomic Study of Chrysosplenium fauriae Group (Saxifragaceae), with Description of a New Species. Acta Phytotax. Geobot. 46(1):1-27.